

JAL 争議今年こそ解決を 空の安全と労働者の権利を守る

闘う勇氣と元氣をもらった

全面解決求め本社前に750名結集



本社前で解決への決断を迫る

「JAL争議の早期全面解決を目指す実行委員会」主催のJAL本社大包围行動が12月22日、東京・品川のJAL本社前にこれまでで最大の750名を超える労働者・支援の仲間が結集して取り組まれた。

100人の大合唱『あの空へ帰ろう』の歌声が響くなか、客室乗務員の山田純江さんの司会で始まり、主催者を代表してかながわ連絡会の宮垣忠さんが「JALはこの13年でパイロットを600人以上、客室乗務員を6700人以上採用しながら、解雇者を1人も採用せず、解雇者の優先雇用を定めたILO166号を無視した人権侵害だ」と訴えた。

JHU（JAL被解雇者労働組合）の山崎秀樹書記長が都労委での2つの申し立てについて「解雇した人から優先的に再雇用すべきた」と求めた事件について、あっせんが決定した。国土交通省の指導監督責任を申し立てた事件では和解を含めた進行協議が決定した」と報告した。

続いてあいさつに立った福田昭夫衆院議員（立憲）は「解決を求め24人の超党派の国会議員でJALや都労委



会社に想いをぶつける JHUの山口委員長

支援する会代表の柚木康子さんは、「力を合わせて、納得する解決を勝ち取ろう！」と訴えた。

に申し入れを行ってきた。しつかり解決する気持ちだ。何と13年前解雇して、4回のILO勧告受けても改善しない。けしからんと思う。頑張り抜こう」と力強く訴えた。

大阪、愛媛、福岡の当事者と近村一也議員が交渉団長からの決意表明があり、JHU山口宏弥委員長が「JALの闘いは『空の安全と労働者の権利を守る』闘いだ。会社と平世紀も付き合ってきたが、ひどすぎる。ホテルリゾート開発、ジャンボ機大量購入、ドル先物買い2200億円、反社の株主に風俗接待をやっていたこと、裏金づくりのために株主優待券を金券ショップで換金していたなどのず

さんな放漫経営がJAL破綻をもたらし、そして経営者は責任をとらずわれわれを解雇した。今日、JALが国交省から業務改善勧告を受けたが、国交省がこの集会に合わせて出したのではないか。争議解決はJAL、利用者、労働者、株主、誰にとってもプラスだ。赤坂社長は決断せよ！来年こそ納得いく解決を勝ち取るために、頑張り抜く！」と怒りのスピーチでアピールした。

最後に鈴木圭子客乗争議団長の首領でシュプレヒールと団結カンパローで早期解決を誓い合った。(K)